スーパーサイエンスハイスクール

米沢興譲館高校 ＳＳＨ通信

第13号　平成25年7月2日

米沢興譲館高校SSH企画部

五感をフル活用して「本物の自然」を学ぶ

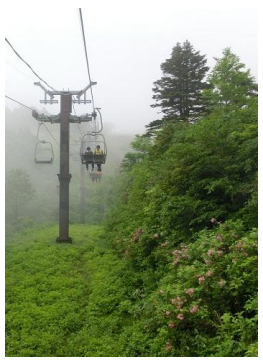
西吾妻山フィールドワーク研修

5月18日・20日

本校におけるフィールドワーク（FW）研修は単なる登山行事ではなく、授業での地理・生物・地学などの学習内容を経験的に深めることが目的である。

特に「生物基礎」の授業では、このFW研修を見据えて「生物の多様性と生態系」を前倒しして学習している。バイオームと気候の関連性など、教室では実感しにくかったものでも、野外で実際に経験してみると、きっとわかることがあったはずだ。

湯本駅前で山案内人さん達にごあいさつしたのち、ロープウェイに乗車。真下に広がるブナ林帯には、スギ、アカマツ、カエデ、カンバなど、多種多様な樹木が混在しているのがわかる。続いてリフトに乗ると、両脇にはさっそく立派なオオシラビソやダケカンバが並んでいるのが見えてくる。

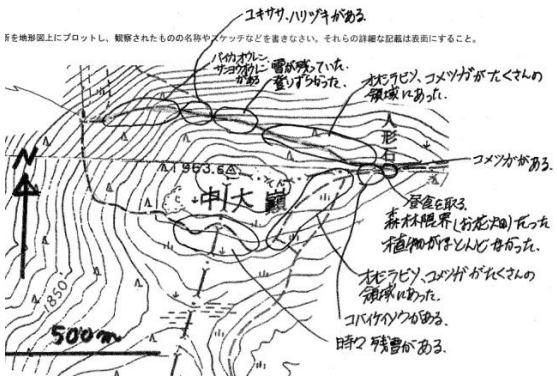


リフトから見えるオオシラビソ（奥の針葉樹）

大きな石が転がる山道を踏みしめながら進んでゆくと、所々に見慣れぬ高山植物が咲いている。立ち止まって案内人さんの説明を聞く。

ショウジョウバカマ
暗い林床にひっそりと咲く

西吾妻山の動植物や歴史、環境問題についてなど、案内人さんの知識は深い。
「自然豊かな東北こそ、環境問題に対するしっかりとした意識と取り組みが必要」



課題1：ルート上で観察したものを地図に記録。様々な植物名や生育の様子が記されている。（1年3組K. S. 君作成）

残雪を踏み越え、針葉樹林を抜けると、ハイマツやクマザサを抜ける木道になる。歩くのが一気に楽になり、周囲の景色や植物に目を向ける余裕ができてきて、おしゃべりの合間に、教わった植物の名前を繰り返し確認しあう声が聞こえる。

人形石付近では群生する高山植物を観察できる。昼食を取り、クラスのみんなで記念撮影。

左上：チングルマ
右上：ミツバオウレン
右下：ゴゼンタチバナ
ゴゼンタチバナの花は本校校章のデザインモチーフ。
興譲館生必見！

研修を終えて　―生徒の声から―

▼夏緑樹林、針葉樹林、森林限界や、バイオームの垂直分布をしっかり確認できて、勉強になった。(Y. S.　他)

▼高山植物は小さい花を咲かせるものが多かった。とても可愛かった。そして、生きるための工夫が沢山してあった。(M. A)

▼ロープウェイやリフトを使わずに登ってみたい。(T. T.)

▼スケッチブックに記入した情報が少なかったので、次回は真っ黒になるまで書き込みたい(K. O.)

▼山案内人さんに山登りが上手とほめられてうれしかった。普段町の中で生活しているが、山の中に行くと沢山の発見があってとても楽しいなと思った。(N. E)

18日（1-3組）は悪天候に見舞われた。
20日（4・5組）は曇天だったが、むしろ山歩きにはよい天候。

池塘（湿原の泥炭層にできる池沼）の観察。低気温地域では分解者のはたらきが弱いため、枯死した植物の遺骸由来の有機物が泥炭となって堆積する。そこに水が溜まったものが池塘であり、周囲と隔絶された環境であるため、独特の生物相ができる。

－本の中でも、自然の中でも－　きみたちの「？」を大切にします。

山形県立米沢興譲館高等学校　〒992-1443　山形県米沢市大字笹野1101番地
TEL:　0238-38-4741　FAX:　0238-38-2531　http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/